

千歳市かわまちづくり検討会 現地視察・意見交換会 議 事 要 旨

■日 時：令和6年9月4日(水) 9:00~11:20

■場 所：

(視察場所) 千歳市スポーツセンター付近、清水町親水公園、ハルニレ公園、
道の駅サーモンパーク千歳

(意見交換会) サケのふるさと千歳水族館 2階会議室

■出席者：

千歳市かわまちづくり検討会委員 11名(うち代理出席者1名)

堀野会長、菊池副会長、斉藤委員(吉田委員の代理)

佐々木委員(意見交換会のみ参加)、北山委員、松澤委員、市川委員、藤吉委員

宮川委員、矢部委員、川田委員

※鈴木委員・角谷委員欠席

■議事内容：視察場所及び意見交換会

各委員等からの発言は以下のとおり。(欠席者は、後日意見聴取)

- ・ カヌーで橋の下を通る際落書きがあるのではないかと気になっていたが、現状では、橋の下にそういったものは無く安心した。美化の面で観光客にアピールできると思う。
- ・ カヌーに乗り水に親しむというのは非常にいいことであるが、観光客のマナーが気になるという意見があった。例えば、利用者に協力金を負担していただくことで抑えられないだろうか。
- ・ 現地を確認して場合によっては計画を少し変えるなど、臨機応変に対応した方がよい。
- ・ インディアン水車橋左岸側は、通路の整備が難しければ期間は限られるかもしれないが、通行出来るようにするなどの対応が出来ればよい。
- ・ 例えば、橋の下にカヌーに乗らないと見られない地図を描くなど、カヌーに乗ることの特別感を魅力として発信できるとよい。

- ・千歳川の水面利用については特に制限はないと思われるので、カヌーなどの利用が始まると、他の水上アクティビティも含めて個人で乗り入れる利用者も増え、事故発生の危険性や、指定区域外での乗下船、河川敷への車両等の無断乗り入れなど、悪質なマナー違反が誘発される恐れがあり、何らかの予防策が必要と考える。
- カヌーポートなどの施設整備にあたっては、利用者に対する一定のルール作りが必要と考えており、計画策定後の推進協議会（仮称）において検討していくこととしたい。
- ・カヌー含め千歳川を有効活用する上では、地域住民と観光客の共存が大きな課題となる。かわまちづくり計画書の骨子ができた段階で、住民の意見を聞きながら、検討会でブラッシュアップできればよい。
- ・スポーツセンター付近にカヌー乗り場を設置する場合は、千歳川の形状や水深の関係、また、サケの遡上時期には工事の制限があるなど、難しい工事になることが想定される。
- ・整備するだけでなく、地域住民に利用価値や利用方法を理解してもらう必要がある。
- ・今日はカワセミも見られるなど、改めて生き物が豊富な川だと認識した。
千歳川は、サケやヤマメが泳ぐ姿がまちなかでも普通に見られるという魅力があり、生き物と共存・共生できる環境がしっかり残っている川であるということを発信できるとよい。
- ・カヌーを利用する特別感が出るような仕掛けがあると利用者が増えるのではないかな。
- ・カヌーやサイクリングなど、それぞれの水辺の利用が連動し、水辺で丸一日過ごせるような仕組みがあるとよい。
- ・利用者に多少の不便を掛けても、自然を守ることを優先した整備にしてほしい。
サーモンパーク周辺のカヌーポートは、現況の自然の傾斜を活かした整備がよい。
- ・カヌー利用により業者や個人が集まると千歳川の景観が損なわれるおそれがあるため、ライセンス制にするなど制限を設けてはどうか。

- ・ カヌーに乗ることが、千歳川のきれいさや、なぜ川がきれいなのか、きれいな川を守っていくことの大切さを学ぶ、環境教育につながればよい。
 - ・ 例えば、カヌーを利用する方からアクティビティ料金とは別に、千歳川美化のための募金をお願いすることや、ツアーのネーミングに環境教育的なものを入れることで、観光客にとっても学ぶ機会になるのではないか。
 - ・ サイクリングロードや遊歩道の落書きなどのマナーに関しては、例えばアスファルトへの塗装により明るい色の舗装にすることで、観光客に「汚したくない」と思っただけなど、明るく楽しい雰囲気づくりというのも必要ではないか。
 - ・ 地元の事業者が、試験的に冬季のラフティングの商品を販売した実績がある。
冬は、樹木の葉が落ち、樹氷や猛禽類の姿を発見しやすくなるなど、夏とは違った楽しみ方もある。カヌーポートの整備は、冬季の利用も見据えた整備ができるとよい。
 - ・ グリーンベルトにどのように日常的に市民が集まる場所が整備できるかが肝になる。千歳川を有効活用することを考えると、清水町親水公園の周辺は、キッチンカーだけでなく、例えば、常設型の川の駅（仮称：千歳川リバーステーション）のような観光拠点を建設し、観光の拠点である道の駅との間をカヌーやサイクリング、ウォーキングなどで利用できるような構想ができるとよい。
- グリーンベルトの利用については、グリーンベルトや周辺のまちの活性化に向け、市の担当部署においてサウンディング調査を実施しているところ。かわまちづくり計画が先行しているが、今後も庁内関係課と連携し検討していくこととしており、ご意見についてももしっかり共有する。（事務局回答）
- ・ 事業実施にあたっては、環境への配慮を欠かさないことが重要である。
 - ・ カヌーを乗り降りする場所が少なく、トイレや手洗い場、水汲み場など、途中で休憩できる施設があるとよい。
 - ・ 遊歩道沿いに増設する照明灯は、環境負荷が少なく、また、背の低い照明灯とするなど、設置後の景観の変化も考慮した空間デザインを考えていく必要がある。

- ・ 親水公園周辺は、住宅や会社など私有地が多いので、ソフト施策の実施にあたっては、町内会と意見交換しながら、騒音や景観への配慮を行う必要がある。
- ・ 例えば、千歳川沿いの桜並木や四季の花々など、「川」から「まち」を見る楽しみや川の中と川沿いの清掃活動を同時に実施し、楽しみながら「まち」から「川」を見られるような仕掛けづくりができないか。
- ・ 千歳川は、カヌーやサイクリング、ウォーキングなど環境に負荷をかけずにアクティビティーが楽しめる場所であり、ゼロカーボンやカーボンニュートラルを実現できる場所であると再認識した。これらを推進し、千歳川を守ることを念頭にハードとソフト両方の整備ができるとよい。
- ・ まちの中に、きれいで川に入って楽しめる場所があるというのは、全国で見てもそれほどない。どう発信していくかが大事である。
- ・ 川の中から橋を見る機会は少ないが、実際に見ると川の中から見る角度で橋は作られていないのだと思った。川の中からも橋が特徴的できれいだと、カヌーに乗る楽しみが増えるのではないか。

以上